

令和4年度 大学教育再生戦略推進費 ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業

地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら広がる

医師養成モデル事業

～ KANEHIRO プログラム：病気を診ずして病人を診よ ～

I. 達成目標に対する進捗状況

- 宮崎大学は厚生労働省：医師需給分科会「医師の需給推計」をもとに医師供給過剰の到来を見越して、令和4年度入学者選抜から医学科入学定員の暫定増を中止し、恒久定員100名とする一方、医師の偏在対策に資する地域枠学校推薦型選抜を恒久定員内の40名（25名から15名増員）とし、宮崎県を含めた全国の高等学校を卒業後2年以内、又は当該年度卒業見込みの者を対象とする地域枠C（15名）を新設した。
- 令和4年度以降の年次進行に伴い、宮崎県キャリア形成プログラムの対象となる在學生は本事業が開始された令和4年4月時点の「128名」から令和7年4月時点では1.49倍の『191名』に増加しており、重点課題①～④の解消と本事業の公募要領：P1（2）＜目的＞に記載された「将来、地域医療に従事しようとする意思をもつ学生を選抜する枠を活用し、地域にとって必要な医療を提供することができる医師の養成」の達成が期待できる進捗が得られている。

II. 定量的に示すことのできる成果・効果（事業前後での比較等）

- 令和8年度宮崎大学医学部：地域枠学校推薦型選抜「地域枠A：定員10名＝宮崎県内の高等学校を卒業見込みの受験生」の応募者は50名（倍率：5.0倍）を数え、令和5～7年度平均倍率：3.8倍を大きく上回り、本事業にも関連する「宮崎から医師を目指そう！応援フォーラム」をはじめとする広報活動の成果・効果が得られている。
- 宮崎大学医学部：地域枠学校推薦型選抜で入学後、本事業を通じた『KANEHIRO プログラム』及び「宮崎県キャリア形成卒前支援プラン」を受けて卒業した宮崎県キャリア形成プログラム適用医師は、令和7年10月現在で「59名」を数える。今後の年次進行に伴い、令和4年度以降に恒久定員内で40名に拡充した地域枠入學生が卒後臨床研修を開始する令和10年4月には「141名」を数える見込みである。さらに、キャリア形成プログラム従事要件の卒後

9年目を迎える令和18年4月には当初の計画通り『360名』を数える見込みで、このうち宮崎県キャリア形成プログラムが定める医師少数区域B群及びC群の医療機関に従事する医師数は「160名」となり、本事業で重点課題として掲げた①若手医師の減少、②医師の地域的な偏在、③特定診療科の医師不足、④女性医師の就労環境及び医師の勤務負担、の解決に向け大きく前進するものと期待されている。

Ⅲ. 連携校や関係団体との役割分担や連携状況

- 宮崎大学と宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎県医師会は、令和2年10月26日に「宮崎県医師養成・定着推進宣言」を発し、①地域枠の適切な定員設定と医学生教育の充実、②宮崎県キャリア形成プログラムに基づく医師の養成・確保、③医師の勤務環境の改善による県内定着促進に重点をおき、関係機関が一体となった「オールみやざき」連携体制を強化している。
- 東京慈恵会医科大学と宮崎大学は大学間包括的連携協定を締結し、医学科5～6年次を対象とした診療参加型臨床実習において、単位互換制度を活用した学生交換実習を行っており、令和5年度には宮崎大学医学部生30名（内：地域枠・地域特別枠8名）、令和6年度30名（内：地域枠・地域特別枠10名）、令和7年度42名（内：地域枠・地域特別枠9名）が東京慈恵会医科大学で診療参加型臨床実習を履修した。他方、東京慈恵会医科大学の学生（令和5年度2名、令和7年度3名）も本KANEHIROプログラムのコース選択制診療参加型臨床実習として、宮崎大学医学部で臨床実習を履修した。
- 東京慈恵会医科大学が開発を担当する「VR・シミュレーション実習」では、宮崎大学と東京慈恵会医科大学をオンラインで結び、医療技術習得を目的とした実習評価と指導が遠隔から可能となる情報技術の実装に向けた試験的運用を開始し、成果の一部を第12回日本シミュレーション医療教育学会で発表した。また、患者急変対応を習得するMR(複合現実)コンテンツの開発に取り組み、完成した基本編の試験的運用を通じた応用編の開発に着手している。

Ⅳ. 教育プログラム等修了後の人材へのキャリアパスの構築（修了者の大学、自治体等における具体的な就職状況等）に関する取組状況

- 代表校の宮崎大学では、本事業で取り組むKANEHIROプログラムを修了した学生のキャリアパスとして、「宮崎県キャリア形成プログラム」の策定を宮崎県（医療政策課）と協働し、地域枠入学生に＜宮崎県キャリア形成卒前支援プラン＞を提供し、柔軟性と多様性を併せもつ＜宮崎県キャリア形成プログラム＞の策定と運用を通じて、本プログラム修了者が地域医療に従事しながら専門医資格を取得し、キャリアパスを構築できる体制を整備した。

- 宮崎大学では、令和7年1月に新たな「宮崎大学・宮崎大学医学部附属病院連携病院：病院長／理事長会議」を発足し、「宮崎大学医学部の卒前教育・卒後研修の推進及び改善に関すること」、「地域医療の推進に関すること」等について、地域の医療ニーズを把握しながら組織的かつ具体的に協議し、本プログラム修了者のキャリアパス構築に資する組織体を整備した。
- 宮崎大学医学部医療人育成推進センターは卒前教育6年、臨床研修2年、専門医養成3年を縦断的にマネジメントしながら、卒前教育と卒後の教育・臨床実践との連携を図っており、「医療人キャリア支援部門」では臨床研修マッチングをはじめとする情報提供を行い、学生のキャリア支援に注力している。
- 宮崎大学では、本事業を契機に地域枠入学生を主な対象とする<宮崎県キャリア形成卒前支援プラン>の一環として、入学後の早期より地域で求められる医療を提供する意識の涵養を促し、資質能力の向上を図る『ひむか塾』を開講し、様々な診療科の医師が自身の経験も踏まえたキャリアパスを学生に紹介している。また、地域枠入学生の各学年にリーダーを任命してタテ・ヨコの繋がりをつくり、年に2回、全ての地域枠入学生が一堂に会してキャリアパスの構築に繋がる情報や意見を交換する「全体ミーティング」を開催している。
- 宮崎大学は医学部キャリアデザインサポート委員会を設置し、個人の資質を最大限に発揮しながら、医師・研究者として社会貢献を果たすキャリア形成の支援活動を推進しており、5年生対象の「未来の医療を語るオールみやざき交流会」では、宮崎県知事、宮崎県医師会長をはじめ、県内基幹型臨床研修病院から指導医・研修医が多数参加して、キャリアパスの構築に資する交流が行われている。